

ごごみ日和64

特集：0歳から、気持ちの良い排泄習慣を！
～おむつに頼り過ぎない、楽しい子育て～
おむつなし育児研究所 京都サロン

ごみ減会員さん訪問記「ごみ減の会員さんってどんな方？」:

公栄運輸 株式会社さん

グリーンキーパーがゆく:京大のエコのセンターを目指して
京都大学環境科学センター 浅利美鈴 先生

なごみ日和:KBS 京都 アナウンサー 海平 和

活動報告:平成27年度市民等からの提案による
ごみ減量モデル事業の採択団体が
決定しました!



地域活動レポート:雑がみ回収でごみ減量の成果
静かな地域の熱い環境
～元町ごみ減量推進会議～



おとなが手助けをしてあげると
0歳の赤ちゃんでもおまるで上手におしっこやうんちができます
気持ちいいね、
思わずこぼれるお母さんの笑顔に
赤ちゃんもにこにこ

おむつに頼り過ぎない育児は
親子の信頼感を高め
心の交流を豊かにしてくれます

ごみにまつわるこの数字なあに？

水分80%

答えはWebへ!

※トップページ「よもやま話 ごみ減のごみ袋」
をご覧ください。

写真 おむつなし育児研究所 京都サロン

「ごごみ日和」は、京都市役所、各区役所・支所のエコまちステーション、
京都市図書館、京都生協（市内店舗）などで手に取っていただけます。
最新号・バックナンバーもウェブで公開中! <http://kyoto-gomigen.jp/>



手をとりあって ごみを減らそう!
京都市ごみ減量推進会議

Q ごみ減 検索

特集

0歳から、気持ちの良い 排泄習慣を! ～おむつに頼り過ぎない、楽しい子育て～

おむつなし育児研究所 京都サロン代表
西山 由紀さん

いま、おむつに頼り過ぎない育児が見直されています。「おむつなし育児」と呼ばれるこの方法は、赤ちゃんの声に耳を傾け、排泄をおまるやトイレで気持ち良くさせることを目指す育児方法の一つです。「やり手水」とも言われ、数十年前の日本ではよく見られた方法でした。昭和50年代から紙おむつが普及し、それまで主流であった布おむつと比べて漏れにくく、おむつ交換の手間が軽くなるなど、育児の負担軽減が喜ばれましたが、一方で、「いくつになってもおむつが取れない」「おむつがないとうちができない」など、トイレの自立に悩む保育者が増えているのも現状です。昔ながらの知恵が詰まった「おむつなし育児」の実践を通して、赤ちゃんも家族も笑顔が増え、紙おむつのごみも減る、良いこといっぱいの「エコ」な子育てをご紹介します。

赤ちゃんとの懸け橋に

今回、おむつなし育児の講習会が開かれた会場は、京都二条城の南側にある「助産師あいこさんち」です。生後3～7カ月の乳児とそのお母さん、計6組が参加されました。講師は、おむつなし育児研究所 京都サロン代表の西山由紀さん。まずは参加者の自己紹介も兼ねて、わらべうたを歌いました。「♪この子この子かっちゃんこ この子〇〇ちゃんかっちゃんこ こんには～！」まだしゃべれない赤ちゃんに代わって、お母さんたちが歌います。わらべうたを通して親子のコミュニケーションを図りながら、「おむつなし育児」の話題に移ります。初めて実践するお母さんからは、「いつ、どんな時におまるを使ったらいいの?」と質問がありました。既におむつなし育児を取り入れているお母さんからは、「朝起きてすぐにおまるに座らせてあげると、たいていおしっこをしてくれるよ」とアドバイスも。他にも、昼寝の後や、外出から帰って来てほっとした時、お風呂の前など、赤ちゃんにもきっかけがあると排泄する可能性が高いようです。「おまるに座らせる前に、おむつが濡れてないか、濡れていたら温かいかわ冷たいかをみることで、赤ちゃんが今おしっこをしたいかどうか、感じ



助産師あいこさんちでの講座の様子

ることができますよ」と西山さん。おまるでの排泄ができなくても、あまり神経質にならず、気長に無理のない頻度で続けることが一番だとおっしゃいます。1日1回でも、途中でお休み期間があっても、赤ちゃんがおまるを使って排泄をする習慣は、後々の子育てに良い影響があると言われています。排泄は、赤ちゃんの成長と共に変わっていくものです。そんな変化を楽しむことも、おむつなし育児の醍醐味ですね。

おむつなし育児との出会い

西山さんがおむつなし育児と出会ったのは、2人目の息子さんの臨月の頃。京都に来られて2年、友達ができた方がいいなという思いで入会した自然育児友の会の会報誌に掲載されていた津田塾大学の三砂ちづる先生が主宰する「快適!おむつなしクラブ」の活動に参加、全国から約40組の親子が集まり、勉強会や情報交換を行っていました。この頃は、周りにおむつなし育児を実践している人がひとりもおらず、友達を自宅に呼んでは、どうやらうまくいくのか?と試行錯誤の連続だったそうです。晴れて息子さんのおむつが取れ、子育てが落ち着いた頃、「もうおむつなし育児の活動はやめよう」と思っていたのですが、これまでお世話になった先生方や仲間から「やっとスタート

生きる根源と向き合って

排泄は、食べること・寝ることと並んで、人が生きることには欠かせません。西山さんは、おむつなし育児を通して、生きることの根源と向き合い、目の前の小さな命をより愛おしく感じることができるとおっしゃいます。毎日排泄を観察することで、赤ちゃんの体調の変化が直ぐに分かります。また、おまるに座ると腹圧がかかるので便秘の解消にもなります。膀胱の筋力も自然に鍛えられ、おむつに排泄をする習慣を持つ子どもより、早く排泄の自立が可能になります。おむつなし育児を実践した子どもが、おむつを卒業する年齢は2歳前後。現在、おむつはずれの平均年齢は3歳半と言われる中で、大きな成果が期待できます。更に、乳幼児の紙おむつのごみは1日約1kgと言われて

地点、これからが本番ですよ!」と背中を押され、一念発起。2014年度は環境省の事業に関わったり、京都府や当会議のごみ減量モデル事業の助成を受け、おむつなし育児の普及に努めました。この活動には、お産や子育てに関わる人々や、環境活動に携わる人々からも大きな反響があり、今年度は、文化庁の伝統文化親子教室事業や、昨年度に引き続き当会議の助成も決定し、更なる活動の充実が期待されています。



代表の西山さん

おり、大幅なごみの削減にも貢献できます。子どもの成長にも、環境にも優しい「おむつなし育児」。今年度は、京都市内での講習会やイベントが多数企画されていますので、これから子育てに奮闘される方、今まさに悩んでいる方、お孫さんともっと仲良くなりたい方など、家族みんなで参加されてはいかがでしょうか。



イベントでの出展の様子

●おむつなし育児研究所 京都サロン

今後のサロン、イベント情報

- おむつなし育児講演会 ▶ 7/4 (土) 10:00-11:30 こどもみらい館
- おむつなしサロン ▶ 7/13 (月) 西文化会館ウエスティ (西京区)
7/9, 9/10 あゆみ助産院 (伏見区) *毎月第二木曜
10/16 (金) 山科アスニー (山科区)
- ブース出展 ▶ 9/12 (土) sunsun フェス (梅小路公園)
- 文化庁 ▶ 伝統文化親子教室「昔のくらしを体験してみよう!」
7/18 (土), 7/29 (水), 8/3 (月)

詳細 <http://omutsunashi-kyoto.com/bunka-cyo/>

その他 ▶ 短期集中の講座等もあります。

詳しくは、**おむつなし育児 京都** で検索してください。

「助産師あいこさんち」

(京都市中京区「堀川御池」徒歩1分)

妊婦のセルフケア教室や食育指導、マタニティ・産後の体のワークや育児相談など、お産に関わる人々の心と身体の悩みに応える活動を積極的にされています。詳しくは、HP <http://midwife-aiko.webnode.jp/> をご覧ください。

松村香代子 (平成27年5月13日取材)



社員のエコマインドを高め 環境活動に取り組む “地球にやさしい運送会社”

合い言葉は「無理せず」「無駄をせず」
公栄運輸 株式会社

代表取締役社長 山本龍太郎さん (中)

取締役総務部長 笠井文雄さん (左)

管理課長 芝寄一光さん (右)

国道1号線沿いの会社を訪れると、敷地内に爽やかなトリコロールカラーの車両がずらり。「青い空」「美しい空気」「緑の大地」を表す、青・白・黄緑のカラーリングを施した京都市のごみ収集車（バッカー車）だ。その車両に環境規格「KES」のステッカーを貼付して収集業務を行っているのが、今回ご紹介

する公栄運輸株式会社。昭和50（1975）年の創業以来40年にわたり、家庭から出る一般ごみの収集・運搬の庸車^{※注}及び委託業務を専門に手がけている。

※注＝車両と運転手を派遣

人にも地球にもやさしい安全運転

現在、同社が保有するバッカー車は28台。そのほとんどの車両に廃食用油から精製したバイオディーゼル燃料（以下、BDF）を使用している。また、デジタルタコグラフを搭載して走行速度やルートなどを管理し、人にも地球にもやさしい安全運転を指導、励行している。「バッカー車は威圧感があるので、時速50km未満での走行や、急発進・急停車・追い越しをしな

いなど、走行には細心の注意を払うよう運転手に呼びかけています」と語るのは、総務部長の笠井文雄さん。BDFの使用に加え、安全運転を心がけることで、無駄な燃料消費を防ぎ、CO₂の排出を削減するなどエコドライブにつながり、人にも地球にもやさしい運転を実践している。



内部も美しく保たれている収集車

バイオディーゼルを車両に導入

同社が環境問題を強く意識するようになったのは、京都議定書が採択された平成9（1997）年にさかのぼる。地球温暖化防止京都会議に先立ち、市環境局がバッカー車にBDFを使用する方針を打ち出した。創業以来、一貫して市の業務を受託してきた同社は、その方針に沿って、当事保有していた23台す

べてをBDF仕様に切り替えた。「導入当初はBDFの精製技術が今のようには発達していなかったため、質が悪く、燃料フィルターの目詰まりやエンジントラブルが相次ぎ、非常に苦

勞しました」と笠井さんは振り返る。それでも、徹底したメンテナンスなどによってトラブルを克服し、18年経った現在もBDFの使用を継続している。そこには、山本龍太郎社長のこ

社内で広がる環境意識の高まり

山本社長の環境取組への想いは、その後、環境管理規格「KES」のステップ2認定取得へとつながっていく。温暖化などの地球環境問題を身近な視点で捉え、前述のエコドライブをはじめ、電力やプロパンガスの使用量削減、廃棄物の発生抑制、資源のリサイクルといった地道な環境活動を展開。また、“人づくり”にも力を注ぐ。「社員一人ひとりの環境に対する意識を高めたいので、環境問題を知るための機会や場を提供していきたい」と毎月1回、会社周辺の清掃活動を全社挙げて実施。

手作り紙芝居で子どもたちへ環境教育

同社の取組は社内にとどまらず、地域での環境活動の幅も広がっている。平成19（2007）年から京の^{みやこ}アジェンダ21フォーラムの活動『京都環境コミュニティ活動（KESC）プロジェクト』に参加したのをきっかけに、手作り紙芝居を使って保育園への出前授業を行うなど、次代を担う子どもたちへの環境教育にも取り組んでいる。紙芝居は「白クマのコロスケ」、「ペンギンのペンタくん」、「うさぎのラビちゃん」など、可愛い動物のキャラクターが登場し、地球温暖化、環境汚染、節電などをテーマにしたストーリー展



幼稚園での活動の様子

開で、子どもたちに環境の大切さと呼びかけるといふもの。同社は、「環境かみしばい学習チーム」のリーダーを務めており、他の企

これらの環境活動と、その取組をまとめた環境レポートが評価され、平成24年度「京都環境賞」の特別賞を受賞した。「社員一丸となって取り組んだ努力が評価されて、受賞できたのだと思います。“環境にやさしい運送会社”を前面に打ち出し、環境事業に取り組んできた事業者として、次世代に受け継ぐ地球環境を守ることが社会的使命だと思っています。環境保全のエキスパートとなるよう、これからも努力していきたいです」と

んな想いがあった。

「ごみの収集という地球環境問題に直接関わることをしているので、率先して環境負荷の低減に取り組む必要がある」。

さらに、環境に関する検定受験の推進のため、会社が受験料を助成する制度も創設した。現在、従業員数26名で、3R・低炭素社会検定実行委員会が主催する同検定では3R部門5名、低炭素部門4名が合格。東京商工会議所主催の「eco検定」では5名の合格者を出し、平成24（2012）年にはeco検定アワード・エコユニット部門で優秀賞に輝いている。



手作りの紙芝居。枠も手作り。

業や団体と連携を図りながら、紙芝居のストーリー作成から作画、上演まですべて手がける。紙芝居の後には、太陽光で動く玩具を使った自然エネルギーの実演も。

「楽しく遊びながら、環境に対する意識や学びを深めるお手伝いができたらいいな、と。そのためには、子どもたちが飽きないように、クイズを出したり、玩具に触れてもらったり、参加型の講座を心がけています。紙芝居は1年に1作完成させるのが目標。合い言葉は『無理せず』『無駄をせず』です。無理したら続きません。継続しないと意味がないですからね」。



太陽光で充電した電池で動く子どもたちに人気のロボくん

語る山本社長。帰り際に、敷地内の自転車置き場を指差しながら、「社内の環境意識の高まりとともに、自転車で通勤する人が増えたんですよ」と顔をほころばせた。



他の企業、団体と力を合わせて

「公栄運輸 株式会社」 〒612-8246 京都市伏見区横大路芝生30-1 電話 075-602-2627

藤原幸子（平成27年4月24日取材）

京大のエコのセンターを目指して ～環境科学センター 浅利美鈴先生の挑戦～

京阪出町柳駅から東へ少し歩くと、そこは名門「京都大学」。キャンパスを歩けば、新緑の美しい並木道にも知性を感じます。今回は京大の環境管理の中心を担っている環境科学センターの浅利美鈴先生に、当該センターの環境教育・研究について、さらに、国際的に活躍されている先生の最近の取組についてお話を伺いました。



京都大学環境科学センターとは？

昭和46（1971）年、当時大学の排水溝から水銀を含む廃液が検出され、さらに、大学から出たごみの不法投棄問題も加わり、学内外から廃棄物処理のあり方を厳しく問われた時期があったそうです。これを受けて、昭和52（1977）年に発足したのが環境保全センター（現在の環境科学センターの前身）。過去の過ちを教訓として、当該センターでは先進的なエコな取組に挑戦し続けています。

京都大学における環境教育・環境活動 ～エコ～るど・京大～

環境科学センターでは、「環境学」「環境安全学」などを教養科目として、すべての在学生在が受講できるよう開講しています。この授業の中では、地球環境問題の他、京都大学における廃棄物・廃液処理の取組も紹介されています。浅利先生に受講者数を尋ねると「環境学で50人くらいかな？もっとたくさんの学生に受講してほしい」と苦笑い。しかし、センターが管轄する「エコ～るど・京大」という参加型の環境活動には、多くの学生が登録・参加しているそうです。

廃棄物処理を科学する

平成25（2013）年、「水俣条約」が採択され、現在、国際的に水銀を管理する取組が進められています。浅利先生はその前から水銀問題を研究されていましたが、この条約採択を受けて、水銀の適正な管理システムの重要性を訴えています。「水俣病をきっかけに、日本での製品製造時の水銀使用は削減されてきましたが、家庭や事業所にある製品に潜む水銀の量は決して無視できるものではありません。この処理をどうするかが問題なのです。」と力を込められました。

浅利先生、ソロモンへ行く

JICA（国際協力機構）のお仕事で、ソロモン諸島にて1ヶ月の滞在から帰国されたばかりの浅利先生。そこでの活動内容について尋ねると、「ソロモンの家庭からのごみ分別・収集を実現するのが私たちのミッションです。」と答えられました。ソロモンをはじめ、太平洋島嶼国（とうしょこく）のごみ問題は深刻で、このまま不衛生な状態が続くと、疫病の蔓延や自然環境破壊などを招きます。

学内の廃棄物問題から始まった京都大学の環境活動。今では世界中でその教訓が生かされようとしています。



京大のエコアイドル
「くすちゃん」



ソロモンでゴミ削減のための産官学市民協議会を立ち上げた様子

浅利 美鈴 先生

2000年、京都大学工学部地球工学科卒業。2004年、工学博士。研究テーマは「ごみ」。京都大学のエコキャンパス化にも取り組む。また、学生時代に「京大ゴミ部」を立ち上げ、環境問題の普及啓発・教育活動に取り組みは始める。2003年には「京都ごみ祭」を開催。2005年からは、京都議定書達成に向けた「びっくり！エコ100選」や「京都議定書パスデーウォーク」、エネルギー問題にアクションを起こす「びっくりエコ発電所」などを展開。



京大のエコトップランナー エコ～るど・京大メンバー

京都光華女子大学環境ボランティアサークル グリーンキーパー（平成27年5月8日取材）

なごみ 日和



KBS 京都 アナウンサー
うみひら なごみ
海平 和

●● 第6回 「蹴上浄水場」 ●●

日に日に暑く、本格的な夏となりましたが、皆さんは季節の移ろいを何で感じられるのでしょうか？私はラジオカーリポーターとして外から町の様子を伝え始めた4年前から、空と花を見ることが多くなり、季節の変化を感じています。空の色、空気感、雲の形や高さ、日々変わっていく様子は美しく飽きることがありません。また花も桜が終わり、新緑が美しくなると、ツツジ、サツキ、バラ、あじさい…毎年同じくらいの時期に花開く季節の合図。面白いですね。

今年のGW、そんな美しい花を愛でに蹴上浄水場に行ってきました。私たちに水道水を届けてくれる浄水場ですが、ツツジの名所としても有名ですね。11万平方メートルの敷地内にオオムラサキや琉球、キリシマ、ドウダンなど様々な種類のツツジ約4600本が植えられていて、一般公開は昭和のはじめ頃には行われていたそうです。私ももちろん甘い香りを漂わせる色とりどりのツツジにうっとり魅せられてしまいました。

さて、どうしてツツジが選ばれたのかご存知でしょうか？実は、ちゃんとわけがあるんです。配水池は山の上であり、そこに水を貯めてから自然流下で私たちのもとへと水道水が送られています。疏水との位置関係から斜面の多い場所に浄水場が作られることになるのですが、その斜面の崩壊を防ぐために細く根の張る樹木は適さない、また水を扱う施設なので花びらや葉っぱが舞い散らないものをということで、ツツジやサツキが選ばれ、蹴上浄水場には約4600本のツツジと約1700本のサツキがあります。

今後、より美しいツツジを楽しんでもらうために、数年かけてツツジの育成に取り組まれるそうです。ツツジの現状を細かく調査し、少し咲きが悪いものは剪定したり、ツツジの開花時期には咲いていなかったサツキをツツジに植え替えたり。より一面鮮やかな光景が楽しめるようになりそうですね。



ツツジのトンネルの前で

海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。テレビ「京スポ」、ラジオ「森谷威夫のお世話になります」などに出演中。

ごみ減 活動報告 ごみ減量モデル事業 採択団体決定！

平成27年度「市民等からの提案によるごみ減量モデル事業」の助成団体が、以下の11団体に決定しました。（詳細は、当会議ウェブサイトをご覧ください）

- ◆「お買い物でできるごみ減量行動～MYバッグ持参の一步先へ～」松原京極商店街振興組合（理事長 井上昌則）
- ◆「地球にやさしいエコな子育て 0歳からのおまるでもっとごみを減らそう！」おむつなし育児研究所京都サロン（代表 西山由紀）
- ◆「地域ごみの資源化でクリエイティブ・リユースを！-目指せゴミコロリ2015-」NPO法人こどもアート（理事長 加藤ゆみ）
- ◆「京都市北区でモデル地区とした水銀体温計・水銀血圧計の回収実験」NPO法人コンシューマーズ京都（理事長 原 強）
- ◆「めざせ！ねざせ！『みんなで一緒に、体操服のリユース・リサイクル』『体操服いってらっしゃい、おかえりなさい』プロジェクト（代表 岡部達平）
- ◆「古着をリメイク レッツ・エコチャレンジ！～クールネックの巻～」豊園地域ごみ減量推進会議（会長 長谷田徳子）
- ◆「堀川通 ごみ減量につながる住民への意識づけキャンペーン」堀川と堀川通りを美しくする会（会長 吉川哲雄）
- ◆「秋の祭典」向島駅前まちづくり協議会（会長 福井義定）
- ◆「FreeFleaMarket～捨てる神と拾う神～TOOL（道具）版道具の交換と修理と使い方」室町地域ごみ減量推進会議（会長 織田英夫）
- ◆「ごみ減量から始まるエコ地域づくり」桃山エコ推進委員会（委員長 大倉正暉）
- ◆「EcoおばちゃんProject2015」Ladies' Eco Circleプラムロード（代表 西井博子）

*皆さんも助成金を活用して、ごみの減量に取り組みませんか？28年度の募集は28年1月を予定しています。

雑がみ回収でごみ減量の成果 静かな地域の熱い環境

元町会館を活動拠点に 人々が力を合わせて

賀茂川にかかる北山大橋から、北山通りを約1キロほど西に、京都市立元町小学校があり、元町ごみ減量推進会議（以下、元町ごみ減）は、昭和16年に開校した、この小学校を核に活動を続けています。オフィスも商店も少ない閑静な住宅地である元町学区では、18町内約1400世帯が暮らしを営んでいます。小学校周辺の清掃をはじめ、街の静けさからは想像もできないほど、熱心にエコ活動が続けられていました。

活動拠点である「元町会館」は、コンクリート造り2階建てで1階は会議室とミニキッチン、2階は多目的スペース。元町ごみ減のほか、社会福祉協議会、保健協議会、元町愛護会などの団体が共用で使っています。拠点であるこの会館で高田艶子会長にお話を伺いました。

毎月第2土曜日は「元町エコの日」 雑がみ回収で、ごみ減量効果を実感

5月9日朝10時半、元町会館前には、20リットル入の使用済てんぶら油回収ボックス3個が並べられました。自転車



元町ごみ減量推進会議 高田艶子会長

で来た人は、ペットボトルに入れた油を袋から取り出して、当番に手渡します。その後も次々と、地域の人々が使用済みの油を持ってきます。「ボックスがいっぱいになることが多いんですよ」と当番を務める杉本さん。余程の悪天候でない限り、満杯になるといいます。平成12年、元町ごみ減設立当初より、毎月1回実施しているてんぶら油の回収は、地域に浸透していると見受けました。

てんぶら油と乾電池のほか、平成24年からは蛍光灯の回収も加え、資源物回収の充実を図ってきましたが、現在は、京都市がごみ減量対策として注力するコミュニティ回収も実施。18町内を5ブロックに分け、それぞれブロック長を置き、23拠点の担当と連絡を取り合いながら、古

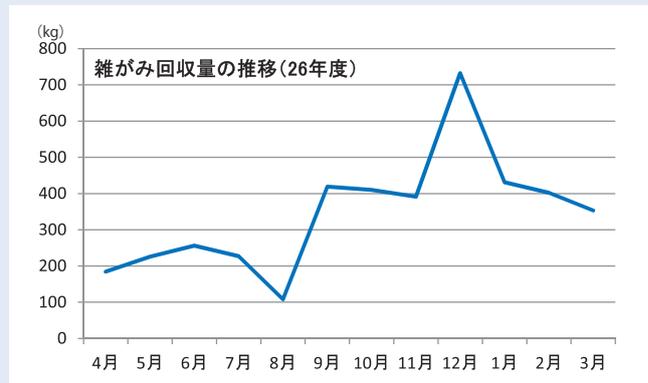
紙（新聞・段ボール・雑紙）と古着の回収を進めています。『第2土曜は、元町エコの日』を合い言葉に、継続的に取り組んでいます。

昨年4月より実施している雑がみ回収は、「燃やすごみの袋に入れてい

たごみが減り、小さなサイズで間に合うようになった」との声が届くなど、減量効果を確認しています。実施に先立ち、当会議と北区エコまちステーションより講師を招いて勉強会を開いたことが地域の協力を促したようです。回収量もスタート当初に比べ、半年後には2倍強に。全体の量が増える12月には4倍近くを回収しました。※グラフ参照



使用済てんぶら油回収の当番を務める
牧野さん、藤井さん、杉本さん（左より）



マナーやルールの徹底が 心地よく暮らせるまちの条件

元町ごみ減の地盤であるこの地域は、環境へのより積極的な姿勢を打ち出し、平成26年、京都市が低炭素社会実現に向け進めている「エコ学区」事業に手を挙げました。高田会長は「課題は多い。まだまだやる必要がある」と語ります。まず、コミュニティ回収の浸透について、さらなるごみの出し方のマナーやルールの徹底を図りたいと前向きです。独居の高齢者や、空き家問題、遺品整理の問題なども今後の活動の視野に入っているといいます。心地よく暮らせるまちづくりのために、まず、ごみ減量を…。地域の人々が力を合わせて取り組む姿が印象に残りました。

森田知都子（平成27年4月25日取材）